

## 豊かな自然の証明「オオムラサキ」

7月11日、村クリーンセンター（久津ノ元）で国蝶のオオムラサキが発見されました。この蝶は限られた環境の中でしか育たない貴重なもので、鮮やかな紫色と黄色の紋様が美しく、広げると10cmほどもある大きな羽が特徴です。

自然環境の荒廃により、全国的にもめずらしくなってしまったこのオオムラサキ。自然破壊の状況を示す一つの指標となっています。同職員的那須裕二さん（十根川）によると昨年から数回目撃していて、幼虫の生育に欠かせないエノキが周辺にあるからではないかとのこと。いつまでもオオムラサキを見れる環境であってほしいものです。



▲クリーンセンターの事務所に現れたオオムラサキ。周辺を優雅に舞っていました。

## 400年ぶりに故郷へ

7月17日、熊本県山都町（旧清和村）の栗藤集落の35名が、村境を徒歩で越えて本村の尾向地区を訪れました。参加したのは、1616年に向山城（向山日添）で起きた「13人衆の乱」によって、椎葉をやむなく離れることになり、同集落に住み着いた村人の子孫やゆかりのある方々。

当時、椎葉から同集落まで歩んだ道のりを同様に徒歩で逆戻りし、先祖の故郷でもある向山城を供養しようと実施されました。行程は早朝に出発し、猛暑の中、1600m級の九州脊梁を越え雷坂を経由して本村に到るという困難なもの。12時間以上かかって全員が無事に到着しました。

受け入れた向山地区では多くの方々が出迎え、約400年を経た再会を喜んでいました。



▲喜び合う参加者。懐中電気なども使用してようやく椎葉へたどり着きました。

## 小学校対抗水泳大会

7月21日、椎葉小のプールで第13回椎葉村小学校体育連盟水泳大会が行われました。同大会には村内の各小学5、6年生の児童57名が参加。準備運動や水泳指導が行われた後、4つの個人種目とりレーなどの競技で、日頃の練習の成果を披露しました。

プールには学校関係者や保護者なども応援に駆けつけ、大歓声を送っていました。大会では、4人の児童が郡標準記録を上回るなど好記録が相次いだほか、代表4人が競い合った学校別対抗リレーでは尾向小が優勝、2位に椎葉小、3位に不土野小という結果でした。



▲大声援の中、競い合う村内5、6年生の児童。

## 小丸川源流まつり

7月24日、梅尾地区の小丸川河川敷で第17回小丸川源流まつりが行われました。九州でも屈指の水質を誇り多くの人から親しまれている小丸川。まつり会場には村内外から約600人が訪れ、豊かな自然と盛りだくさんのイベントを楽しんだほか、同地区の方々が準備したバーベキューや手作りの料理を囲みながら交流を深めました。

昨年の相次ぐ台風で会場付近も大きな被害を受け、今年の開催が危惧されていた同まつり。地元の方々や関係機関などの協力によって整備され、これまで以上に素晴らしい会場となりました。



▲エノハ釣り大会や魚のつかみ取りで賑わった小丸川。

